

クラシックバレエを測る

私立福岡ふたば学校

5年

名前 加藤 暖乃香

[1] 研究のきっかけ

私は小さいころからクラシックバレエを習っている。今、一番熱中していることだ。去年からトウシューズをはけるようになり、コンクールで「ゴッペリア」という演目のイタリアンフエッテという振り付けをおどった。イタリアンフエッテとは、片足を上げてクルクルと回る重カキだ。



もっとイタリアンフエッテを上手におどれるようになりたいと思い、自分のおどりを研究してみることにした。

[2] 研究の方法

- (1) 私のおどりの重カキを何枚かの画像に分ける。
- (2) 重カキサイトにアップされているプロのダンサーのおどりも同じタイミングで画像に分ける。
- (3) 同じタイミングの画像同士を比べる。
- (4) 重カキを分かりやすくするため、棒人間に書きかえる。



図1 私のおどりの画像

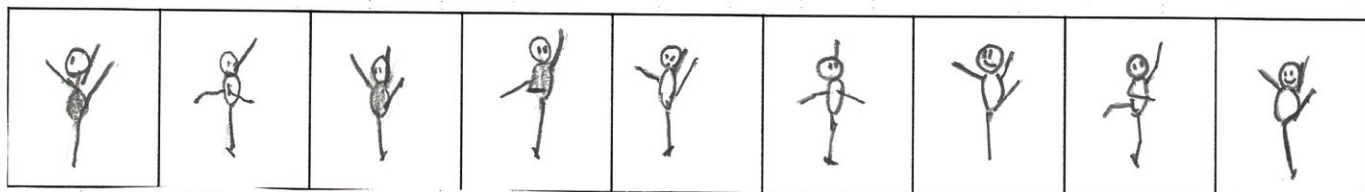


図2 私のおどりの木棒人間(上げている足:左足軸足:右足)

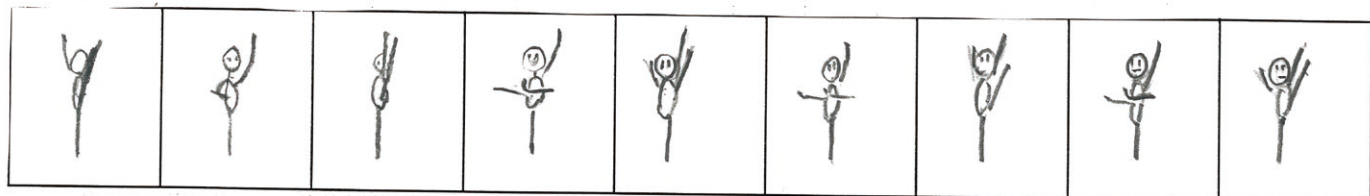


図3 フロのおどりの木棒人間(上げている足:右足軸足:左足)

[3] 研究の結果とまとめ

(1) 図2と図3を比べてみると正面を向いているところで、「タイミング」がおくれていることに気が付いた。

上から見た重力画ではないため、おおよそになるが、体の向きを図にしみた。矢印は体の正面を指す。

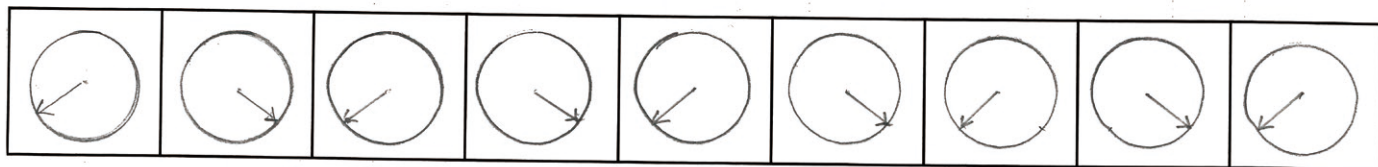


図4 私の体の向き

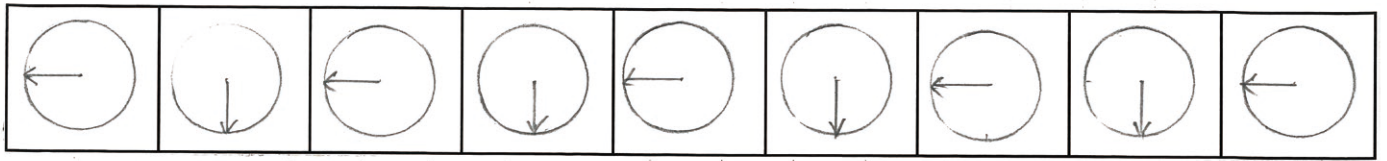


図5 フロの体の向き

フロは一度に270度回っているのに対して私は約240度しか回れていなかった。

(2) 回転がおくれる理由を探る

木奉人間の図(図2・3)を比べて体の向き以外でフロとちがう点を探した。すると、左足を上げる角度と軸足のかたむきがちがうことが分かった。

その角度を分度器を使って測った。

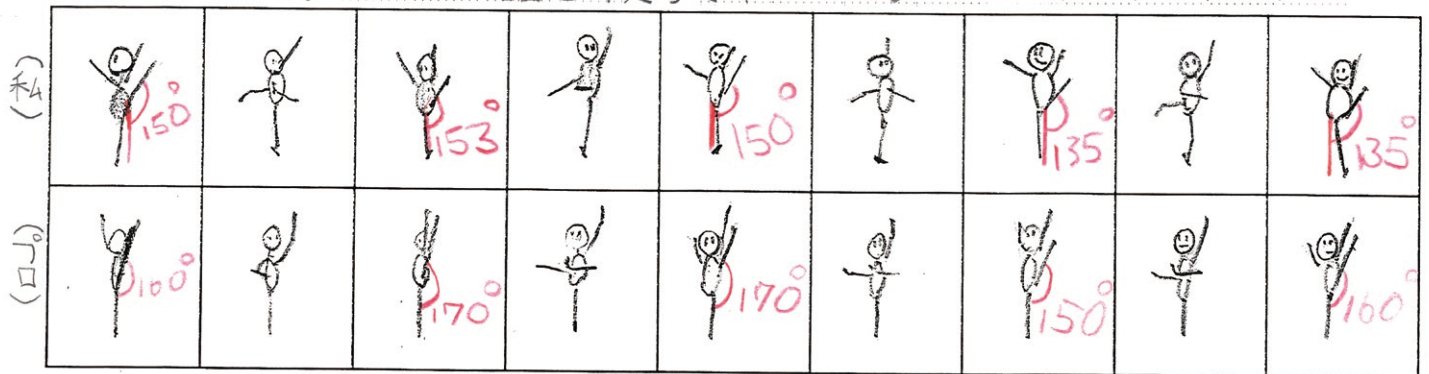


図6 上げた左足の角度(上:私, 下:フロ)



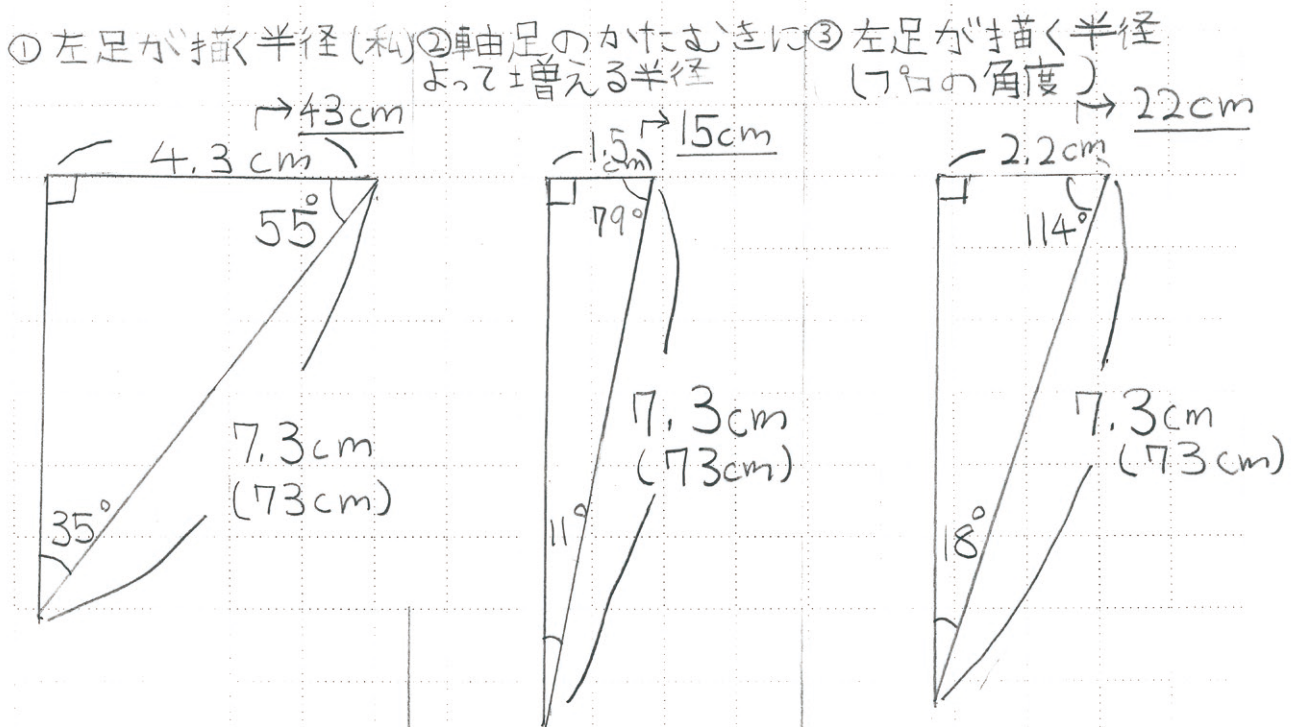
図7 軸足のかたむき(上:私, 下:フロ)

結果：平均の角度

	私	ジョロ
左足の角度	145°	162°
軸足	11°	0°

左足が描く円の半径は、お手本と比べて長くなるので"円は大きくなり、左足は遠回りをしているから、回転がおそくなるのではないかと考えた。

(3) 円の長さをもとめてみる。
縮図を書いて円の半径を出した。



円の長さ:

$$43 \times 2 \times 3.14 = 270.04 \text{ (cm)}$$

軸足のかたむきを

加えた円の長さ:
 $(43 + 15) \times 2 \times 3.14 = 364.24 \text{ (cm)}$

円の長さ:

$$22 \times 2 \times 3.14 = 138.16 \text{ (cm)}$$

実際には、イタリアンフェットの途中でちから重カキが入るので、完全な円を描くのではないが、もし円を描いた場合はお手本(プロ)の時よりの2.6倍の長さとなり遠回りしている事が分かった。

[4]感想

今回の研究で"私のおど"りの足の高さや軸足の傾きについて、プロとの具体的な差が分かった。普段バレエの先生から指し摘されているポイントと重なるがどのくらいを目指せば"よりのか"の目標になった。

しっかりと回転するためには、もっと1本の柔軟性を高めたり、大きな筋肉をつけていく事が必要になる。これから、バレエの練習を元気で、プロのように美しいイタリアンフェットをおどれるようになりたい。

参考サイト:

Miyako Yoshida / Prix de Lausanne

Prize winner

<https://www.youtube.com/watch?v=k2GzQv1XJAK>

見日: 2023年8月4日